

CD 腸炎(抗生剤関連腸炎)は院内感染します！！

下痢患者
増加時の
報告



「CD陰性だったから、
大丈夫です！」

間違ってますよー！

CD 腸炎(抗生剤関連腸炎)は抗菌薬を使用して腸内細菌叢のバランスが崩れ、起炎菌であるクロストリジウム ディフィシル(CD)によって生じます。この菌は健常人の7%程度に定着しており、抗菌薬の使用により発症することがありますが、定着していない人には、便を介して感染し、発症することがあります。 集団感染例も報告されています。



アメリカでは強毒株による死亡例も報告され、また、日本でも、強毒株が検出されています。

予防のためには抗菌薬の使用を適切に行うことは重要です。さらに、便 CD 毒素検査は偽陰性になることもあるので、検査結果に関わらず、CD が院内感染することを認識し、日常の便(下痢便、通常便にかかわらず)の取扱いに細心の注意を払うことが必要です。

※便には、CD 以外にも、ありとあらゆる病原菌(ノロウイルスや病原大腸菌 O-157、バンコマイシン耐性腸球菌VREなど)が含まれている可能性があります。

【院内感染拡大防止対策】

- ① 下痢患者増加の際は、ICT に報告する。
- ② 必ず石けんと流水による手洗いをする(CD やノロウイルスはアルコール製剤に無効)。
- ③ 便の介助やオムツ交換をする際は、必ず个人防护具(マスク、エプロン、手袋)を着用する。
- ④ ベッド周囲の環境清拭は、次亜塩素酸系の清拭ワイプを使用する。
- ⑤ 便が付着した箇所には、次亜塩素酸系の消毒薬で処理する。